

## 病院長 就任のご挨拶

本年4月1日付で病院長に就任いたしました。どうかよろしくお願ひいたします。  
私は小児医療部門開設6か月後の、1992年に当母子医療センターに赴任いたしました。専門は麻酔・集中治療です。こちらに参りまして24年以上がたちました。これまでずっと、センターの職員の一生懸命さや患者さんを大事に思う気持ちを見てきました。患者さんとその家族、職員のために少しでもお役にたてるように精一杯やらせていただきたいと思います。



病院長 木内 恵子

小児医療部門開設当初は、年少の患者さんがほとんどでした。あれから25年がたち、新生児期・小児期発症の疾患を持って成人期に達した患者さんが、成人医療機関にスムーズに移行できるように支援すること(成人移行期支援)が大きなテーマになってきています。これまで、母子医療センターは地域の医療施設から重症疾患や特殊な疾患の患者さんをご紹介いただくこと(前方支援)が多かったのですが、最近数年間は、小児期を超えた患者さんを地域の医療施設、療養型の施設や成人の医療施設に紹介すること(後方支援)にも力を入れています。

2015年7月からは小児集中治療室(PICU)を12床に増床し、重篤小児の救急体制に対応するとともに、周囲の医療機関からの重症な新生児や小児の受け入れがしやすくなりました。

地域医療に貢献するためには、他の医療機関との緊密な連携・協力体制が重要であることは論を俟ちません。院内で3つに分かれていた地域連携担当部署を2014年8月に統合して「患者支援センター」を設置しました。患者支援センター専任の田家副センター長を配置し、患者支援と地域連携をよりスムーズに行えるように体制を整えました。地域の医療施設からの患者さんの紹介にもぜひご利用ください。重症疾患だけではなく虫垂炎などのより一般的な疾患も扱っていますのでご紹介ください。

地域の医療機関と母子医療センターの間の意見交流の場や、地域の先生方のご意見を拝聴する機会を益々増やしていきたいと考えています。本年もイブニングセミナー(事前登録不要)や地域医療連携研修会と情報交換会の開催を予定しております。お時間が許せば、ぜひご参加いただけますようご案内いたします。

地域の皆様のお役にたてるように努力してまいりますので、ご支援、ご指導、ご助言をよろしくお願い申し上げます。

(病院長 木内 恵子)

## 人事異動 (2016年4月1日付)

総 長 ▶ 倉智 博久

副院長 ▶ 川田 博昭

患者支援センター長 ▶ 位田 忍

看護部長 ▶ 福寿 祥子

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

# 診 療 科 の 紹 介

## 血液・腫瘍科

当科は小児外科など関係各科と協力し小児がん医療に取り組んでいます。多職種が参画する小児がんセンターは、きょうだい・家族への支援、長期支援など、子ども・家族を多面的に支えています。

難治がんを対象とする造血細胞移植の小児領域の実績は全国トップで、親をドナーとするHLA半合致移植、骨髄非破壊的移植(ミニ移植)など最先端の移植を行っています。ミニ移植の成績は良好で、内分泌障害、成長障害、不妊など移植関連晩期合併症を軽減・回避できることを明らかにしてきました。

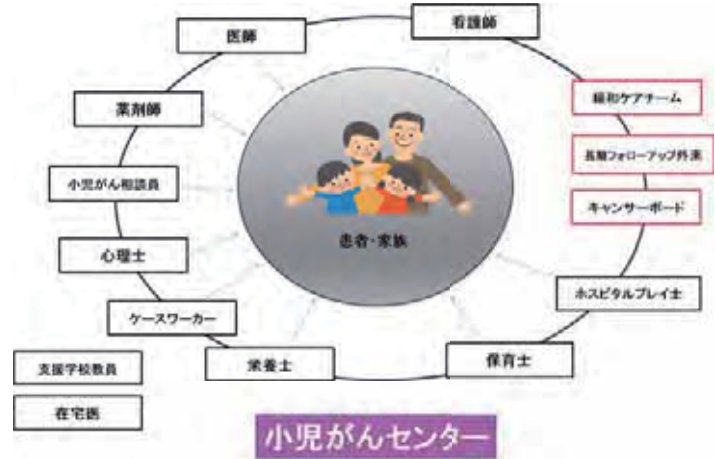
また、稀少・難治疾患である慢性EBウイルス感染症(CAEBV)は、当科が専門とする疾患です。免疫化学療法・多剤併用化学療法・造血細胞移植の3ステップによる治療法の成績は極めて良好で、移植後無病生存率は90%を超えています。

医学の進歩とともに小児がんの治療成績は向上しましたが、晩期合併症が課題になっています。長期フォローアップ外来で消化器・内分泌科と協力して治療終了後の子ども達の成長を支えています。「晩期合併症なき治療」をテーマに、小児がんと闘う子ども達の成長・未来を明るくするために今後も取り組みを続けます。

当科が開設した小児がん・白血病ホットラインは、医療者対象の24時間体制の相談窓口です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(血液・腫瘍科 主任部長 井上 雅美)

小児がん・白血病ホットライン  
(☎0725-57-7677)



# 病 棟 の 紹 介

## 5階東棟

5階東棟は、乳幼児～成人移行期を対象とした病床30床の混合外科病棟です。腎移植時はドナーとなる成人も対象となります。

主な診療科は、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科の6診療科で、予定手術を目的に入院される子どもの周術期看護を主体に看護を展開しています。



5階東棟スタッフ

2014年度の年間入院数は1,362人、手術は1,197件、平均在院日数は6.5日と院内1番の稼働率の高い、多くの子どもたちと出会える病棟です。家族同室されるご家族も多く、その中で大切にしている看護は、

### ① 子どもの立場になって

個々の発達年齢を理解した病室や適切な看護介入を行うことで、環境の変化や治療による制限を最小限に安全・安心に入院生活が送れるように援助しています。

### ② ご家族の立場になって

親子が前向きに治療に臨めるように手術室看護師やホスピタルプレイ士と協力し、個々の子どもの状態に応じて他職種と連携し、必要に応じて保育や院内学級に参加できるような環境も調整しています。

自信を持って退院できるように在宅気管切開や自己導尿、緩和ケアなどの在宅医療や地域福祉との連携も大切にしています。

(5階東棟 看護師長 大林 亮子)

## 専門看護師の紹介

現在当センターには3名の小児看護専門看護師が勤務しています。小児看護専門看護師は6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を通して、保健・福祉・教育にかかわる様々な専門家と協力しながら、子どもの看護・医療の質の向上のために活動する看護師です。



私は主に先天性心疾患の子どもとご家族の看護に携わってきました。先天性心疾患の子どもやご家族の多くは、胎児診断、手術や治療による入院や通院、成長してからは学校生活・病気の管理や就業・結婚・妊娠など、それぞれの時期で抱える悩みや不安があります。

そこで、入院中のみならず、胎児診断を受けたご家族や、慢性疾患をもつ成人移行期の子どもとご家族への支援など、ライフステージに沿った支援に取り組んでいます。その中で、「子どもやご家族が本来持っている力を発揮できること」、「笑顔で過ごせる時間が増えること」を大切に、「子どもにとって最も善いこと」を考えた看護を提供したいと考えています。

また、子どもや家族が安心して療養生活が送れるように、子どもと家族にかかわる医療者とよりよい方法を一緒に考えていきたいと思ひます。ケアに関すること、勉強会など気軽にご相談ください。



小児看護専門看護師  
吉田 佳織

## 第7回 地域連携懇話会を開催しました (2016年2月24日)



当センターでは、“顔の見える連携”をキーワードに地域の医療機関との連携に取り組んでいます。その取り組みの1つとして、年2回「地域連携懇話会」を開催しています。地域の医療機関の方をお招きし、当センターへの期待や課題について直接意見を伺い改善につなげることが目的です。



当センターでは、最近は院外処方の割合が高くなっています。適切で安全な処方のために病院側として意識すべきことは何か、現場の薬剤師さんのご意見を伺うことで、病院内では意識していなかった課題を認識することができました。

院内の電子カルテシステムの課題も見えてきましたので、調剤過誤が起こらない仕組みについて今後も一緒に考えていきたいと思ひます。

### 課題

- \* 処方指示の際、成分量と製剤量の表示が統一できていない問題
- \* 散剤が存在する薬は散剤処方での希望

など

## 診療科 新任部長のご挨拶



母性内科 部長  
和栗 雅子

和田芳直先生が定年退職され、総括産業医も合わせて引き継ぐこととなりました。これまでも妊娠中に発症した内科以外の疾患を他科の先生方に相談させていただいていますが、今後ともご支援・ご協力宜しくお願い致します。



心臓血管外科 主任部長  
盤井 成光

2013年に心臓血管外科部長に就任して以来、症例数の増加と手術成績の向上に邁進して参りましたが、前任の川田先生が副院長になられ、4月から主任部長を引き継ぐこととなりました。今後ともよろしくお願ひいたします。



麻酔科 主任部長  
橘 一也

4月より麻酔科の主任部長として赴任いたしました。患者さんに対しては、周術期の不安や痛みをできるだけ軽減できるよう、術者に対しては手術に専念していただける術中環境を提供できるよう努力いたします。よろしくお願ひいたします。

## イブニングセミナーのお知らせ (医療関係者対象)

今年度も引き続きイブニングセミナーを開催いたします。

時間：17時30分～18時30分 場所：研究所大会議室 事前申込み：不要

大阪府医師会  
生涯教育研修システム  
1単位に認定されています



日程	テーマ (仮題)	担当部署	講演者
2016年6月2日(木)	「PICUとは？」地域の中における母子医療センター PICUの役割	集中治療科	竹内 宗之
2016年7月6日(水)	①伝音難聴と感音難聴、小児の人工内耳手術 ②「TESSとは？」 ～小児耳疾患における低侵襲手術～	耳鼻咽喉科	大崎 康宏 中村 恵
2016年9月7日(水)	小児泌尿器科における minimally invasive surgery (低侵襲手術)	泌尿器科	矢澤 浩治
2016年10月13日(木)	検尿異常への初期対応	腎・代謝科	山本 勝輔
2016年12月7日(水)	小児整形外科の現状	整形外科	樋口 周久
2017年2月2日(木)	小児専門病院の子どもの看護 (仮題)	看護部	福寿 祥子



病院見学ツアーも引き続き実施いたします。参加ご希望の方は事前に参加者の氏名・医療機関名・職種・人数をご連絡ください。

TEL 連絡先  
患者支援センター  
0725-57-3113

## 分娩取扱者 に対する 新生児蘇生法 (NCPR) 講習会のお知らせ

今年度も下記のとおり、引き続き講習会を開催いたします。  
詳細は当センターのホームページをご覧ください。

- 日時** 毎月第2土曜日 12:30～17:30  
※2月のみ第1土曜日、8月はお休み
- 場所** 大阪府立母子保健総合医療センター 中央会議室
- 参加費** 5000円/人
- 申込方法** 『受講希望日、所属先、職種、参加者氏名、連絡先』をメールにてお知らせください。
- 申込先** 患者支援センター Email: chiren@mch.pref.osaka.jp

News

## 『小児緩和ケアガイド』

医師、看護師、薬剤師、心理士、ホスピタルプレイ士からなる多職種チームであるQOLサポートチームは、子どもたちの緩和ケアに取り組んでいます。

このたび、QOLサポートチームが作成した『小児緩和ケアガイド』が医学書院より刊行されました。



付録  
モココヤンのフェイススケール  
/オピオイド力価換算表



## 交通のご案内



診察時間：平日 午前9時～午後5時  
予約受付時間：平日 午前9時～午後7時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター  
患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)  
FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)  
FAX: 0725-56-7785

## 医療者対象 ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】

☎ 0725-56-1070

【小児がん・  
白血病ホットライン】

☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。